

かながわ畜産まめ知識

かながわの畜産

神奈川県は野菜とならんで本県を代表する農業経営部門です。本県の平成20年の農業産出額は756億円で、そのうちの約24%（約177億円）を畜産部門が占めています。畜産経営の戸数は、急速に進む都市化やその他の様々な情勢の中で減少傾向にありますが、県民に新鮮な畜産物を提供しております。

神奈川の酪農経営

乳用牛の飼養戸数は347戸、飼養頭数は10,300頭で、県民約166万人分の牛乳を生産しています。戸数では平塚市が、頭数では伊勢原市がトップです。

一部の酪農家集団では、独自のブランド牛乳を作り、県内の人たちに安心して飲んでもらうための取り組みをしています。なお、県内の学校給食で提供される牛乳は、県内産牛乳が使われています。



神奈川の肉用牛経営

肉用牛の飼養戸数は96戸、飼養頭数は4,990頭で、県民約23万人分を生産しています。戸数・頭数ともに横浜市がトップです。

また、高品質な牛肉の生産についても努力を行っており、関東肉牛枝肉共進会（品評会）においても、たびたび上位に入賞するなど、高い技術が証明されています。また、ブランド牛肉の生産にも取り組み、おいしい牛肉作りを目指しています。



かながわブランドに登録されている畜産物 (事務局：かながわブランド振興協議会)



葉山牛



横濱ビーフ



やまゆり牛



足柄牛



高座豚手造りハム



やまゆりポーク



はまぼーく

※飼養戸数・頭羽数は平成21年2月「畜産統計」

※「県民〇〇人分の生産量」とは県内で1年間に生産される畜産物を、国民一人当たりの年間消費量で割って算出。ここでは平成20年度数値。

※これ以外にもたくさんの県内独自ブランドがあります。

神奈川の養豚経営

豚の飼養戸数は71戸、飼養頭数は79,700頭で、県民約56万人分の豚肉を生産しています。

様々なブランド豚肉がありますが、食品残さを飼料として利用し豚肉を生産する取り組みも、県内各所で行われており、資源循環（リサイクル）にも役立っています。また、豚肉、ハム・ソーセージ等の加工品の直売や移動販売に取り組む生産者も見られます。



神奈川の養鶏経営



採卵鶏の成鶏1,000羽以上の飼養戸数は70戸、飼養羽数は116万羽で、県民約118万人分の鶏卵を生産しています。愛川町、相模原市などの県の北部中央地域に大規模な養鶏場が集中する一方で、県内各地に鶏卵の直売を行う養鶏場があり、生産者と消費者が直接顔を合わせる販売スタイルが多く取り入れられています。